

愛知県三河青い鳥医療療育センター
公的医療機関等 2025 プラン

平成 29 年 12 月策定

【基本情報】

医療機関名：愛知県三河青い鳥医療療育センター

開設主体：愛知県

指定管理者：社会福祉法人恩賜財団済生会支部愛知県済生会

所在地：岡崎市高隆寺町字小屋場9番地3

稼働病床数：105床

(病床の種別) 一般病床 105床

(病床機能別) 慢性期機能105床

(その他) 児童福祉法及び障害者総合支援法に基づく医療型障害児入所施設・療養介護事業所(一体型)としての105床である。

許可病床数：113床

夏季休暇期間における肢体不自由児の入所希望の一時的な増加に対応するため、平成29年8月に8床分増床しており、許可病床数は稼働病床105床に8床を加え113床である。

診療科目：整形外科、小児科、リハビリテーション科、精神科、泌尿器科、内科、耳鼻いんこう科、歯科

職員数：	医師	常勤	8人	非常勤	1.7人
(H29.12.1)	歯科医師	常勤	1人	非常勤	0.2人
	看護職員	常勤	57人	非常勤	3.7人
	専門職	常勤	47人	非常勤	2.4人
	事務職員	常勤	7人	非常勤	0.7人
	合計	常勤	120人	非常勤	8.7人

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状（西三河南部東構想区域：岡崎市、幸田町）

（人口の見通し）

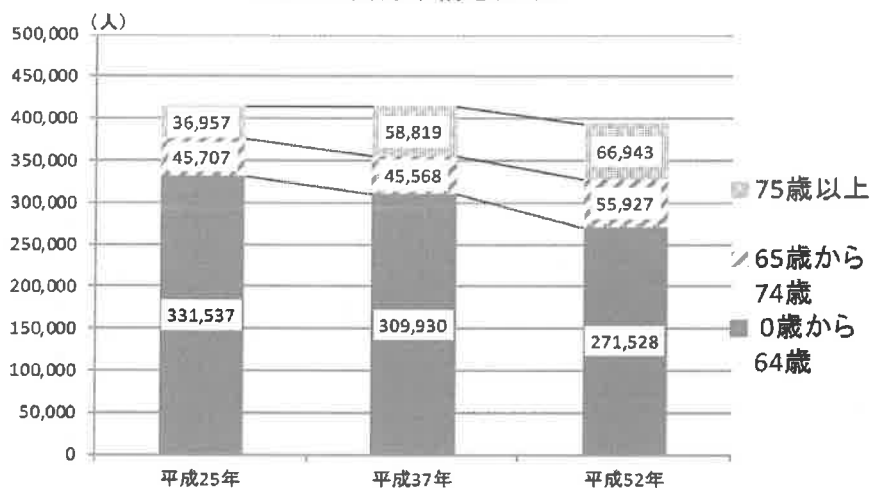
- 総人口は、平成37年(2025年)までは横ばいで推移し、平成52年(2040年)に向け減少していく。65歳以上人口は増加していき、増加率は県全体と比べて高くなっている。

＜人口の推移＞

※（ ）は平成25年を1とした場合の各年の指数

区分	総人口			65歳以上人口			75歳以上人口		
	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年	平成25年	平成37年	平成52年
県	7,434,996 (1.00)	7,348,135 (0.99)	6,855,632 (0.92)	1,647,063 (1.00)	1,943,329 (1.18)	2,219,223 (1.35)	741,801 (1.00)	1,165,990 (1.57)	1,203,230 (1.62)
西三河南部東	414,201 (1.00)	414,317 (1.00)	394,398 (0.95)	82,664 (1.00)	104,387 (1.26)	122,870 (1.49)	36,957 (1.00)	58,819 (1.59)	66,943 (1.81)

＜西三河南部東構想区域＞



（医療資源等の状況）

- 人口10万対の病院の病床数は、県平均の81.4%と少なくなっており、一般病床は65.8%と特に少なくなっている。人口10万対の医療従事者数については、医師数、看護師数が県平均の7割弱と少なくなっている。
- DPC 調査結果（DPC 調査参加施設：4病院）によると、構想区域内において、ほぼ全ての主要診断群の入院及び救急搬送実績があり、緊急性の高い傷病（急性心筋梗塞・脳卒中・重篤な外的障害）及び高齢者の発生頻度が高い疾患（成人肺炎・大腿骨骨折）の入院実績があるが、その大半を岡崎市民病院が担っ

ている。

- 消防庁データに基づく救急搬送所要時間については県平均とほぼ同様であり、DPC 調査データに基づく緊急性の高い傷病（急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞、くも膜下出血・破裂脳動脈瘤、頭蓋・頭蓋内損傷）の入院治療を行っている施設までの移動時間は、30 分以内で大半の人口がカバーされていることから、医療機関への交通アクセスや医療機関の受け入れ体制等に大きな問題が生じていないと考えられる。
- 高度な集中治療が行われる特定入院料の病床については、平成28 年3 月現在、構想区域内（2 病院）において、救命救急入院料・特定集中治療室管理料（ICU）・新生児特定集中治療室管理料（NICU）・ハイケアユニット入院医療管理料（HCU）の届出がされている。
- 平成25 年度（2013 年度）NDB データに基づく特定入院料のうち、特定集中治療室管理料（ICU）及び総合周産期特定集中治療室管理料（MFICU）は自域依存率が低くなっており、主に西三河南部西医療圏へ患者が流出している。
- 以上の状況も踏まえて、岡崎市では岡崎市民病院の増床（一般病床65 床）や新病院の誘致（一般病床400 床規模）など具体的な取組を進めてきており、既存の医療体制と合わせて、平成32 年までに一般病床や2 次救急医療の不足が大きく改善される見通しである。

<医療資源等の状況>

区 分	愛知県①	西三河南部圏②	②/①
病院数	325	17	—
人口10万対	4.4	4.1	93.2%
診療所数	5,259	257	—
有床診療所	408	18	—
人口10万対	5.5	4.3	78.2%
歯科診療所数	3,707	172	—
人口10万対	49.9	41.5	83.2%
病院病床数	67,579	3,064	—
人口10万対	908.9	739.7	81.4%
一般病床数	40,437	1,483	—
人口10万対	543.9	358.0	65.8%
療養病床数	13,806	741	—
人口10万対	185.7	178.9	96.3%
精神病床数	13,010	784	—
人口10万対	175.0	189.3	108.2%
有床診療所病床数	4,801	146	—
人口10万対	64.6	35.2	54.5%

区 分	愛知県①	西三河南部圏②	②/①
医療施設従事医師数	14,712	534	—
人口10万対	197.9	128.9	65.1%
病床100床対	20.3	16.6	81.8%
医療施設従事歯科医師数	5,410	263	—
人口10万対	72.8	63.5	87.2%
薬局・医療施設従事薬剤師数	10,525	484	—
人口10万対	141.6	116.9	82.6%
病院従事看護師数	36,145	1,366	—
人口10万対	486.1	329.8	67.8%
病床100床対	49.9	42.6	85.4%
特定機能病院	4	0	—
救命救急センター数	22	1	—
面積(k㎡)	5,169.83	443.92	—

○ 入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期が70%程度と低くなっており、主に西三河南部西医療圏へ患者が流出している。

○ 疾患別の受療動向においては、がんの自域依存率が、他区域と比べて低い状況にあり、他区域への流出患者の多くが西三河南部西医療圏の医療機関に入院している。

＜平成 25 年度の西三河南部東医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向＞

(単位：上段 人/日、下段：%)

患者住所地	医療機関所在地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
西三河南部東医療圏	高度急性期	12	*	0	*	*	*	*	*	132	38	*	*	*	182
		6.6%	—	—	—	—	—	—	—	72.5%	20.9%	—	—	—	100.0%
	急性期	26	*	0	22	*	*	*	21	400	71	*	11	*	551
		4.7%	—	—	4.0%	—	—	—	3.8%	72.6%	12.9%	—	2.0%	—	100.0%
	回復期	16	*	0	15	*	*	*	20	515	72	*	11	*	649
		2.5%	—	—	2.3%	—	—	—	3.1%	79.4%	11.1%	—	1.7%	—	100.0%
慢性期	*	*	0	*	0	*	0	14	376	27	0	25	*	442	
	—	—	—	—	—	—	—	3.2%	85.1%	6.1%	—	5.7%	—	100.0%	

＜平成 25 年度の他医療圏から西三河南部東医療圏への流入入院患者の受療動向＞

(単位：上段 人/日、下段：%)

医療機関所在地	患者住所地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河北部	西三河南部東	西三河南部西	東三河北部	東三河南部	県外		
西三河南部東医療圏	高度急性期	*	*	*	*	*	*	*	*	132	*	*	*	*	132
		—	—	—	—	—	—	—	—	100.0%	—	—	—	—	100.0%
	急性期	*	*	*	*	*	*	*	10	400	12	*	14	*	436
		—	—	—	—	—	—	—	2.3%	91.7%	2.8%	—	3.2%	—	100.0%
	回復期	*	*	*	*	*	*	*	35	515	*	*	*	*	550
		—	—	—	—	—	—	—	6.4%	93.6%	—	—	—	—	100.0%
慢性期	*	0	0	*	*	*	*	*	376	11	*	*	*	387	
	—	—	—	—	—	—	—	—	97.2%	2.8%	—	—	—	100.0%	

② 構想区域の課題

○ 平成52年(2040年)まで65歳以上人口の増加率が県全体と比べて著しく高いため、平成52年(2040年)までの医療需要の増大を見据え、必要な医療需要や医療従事者の確保を始めとする包括的な医療提供体制を中・長期的に考えていく必要がある。

○ 高度急性期、急性期の入院患者の自域依存率が低い状況にあり、急性期につ

いてはできるだけ構想区域内で対応していく必要がある。

- 構想区域内のDPC 病院は4 病院あるが、入院実績の多い病院は岡崎市民病院のみとなっている。緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要がある。
- 回復期機能の病床を確保する必要がある。
- 今後、新病院の建設により、当区域の医療環境全般、或いは、患者の流入・流出に大きな変化が生じる可能性がある。従って、入院医療や救急医療に関する当区域及び他の構想区域との連携・役割分担はもとより、医療従事者確保等の諸課題を含めて、状況に即した迅速な対応や見直しが必要である。

③ 自施設の現状

・理念、基本方針

《基本理念》

障がいのあるお子さんと重症心身障害のある成人の方を主な対象とした愛知県東部における医療・療育センターとして、利用児・者の人権を尊重し、最良の医療を提供するとともに、多様化する福祉ニーズに的確に応えていきます。

《基本方針》

- 利用者へのサービスの向上
利用者・者に対する医療、療育の充実に努める。
- 地域福祉への貢献
地域における療育拠点として、各機関や行政との連携をはかり、利用児・者とその家族を支援する役割を果たしていく。
- 人材育成と明るい職場づくり
施設運営の持続的発展のため、職員に研修会等への参加の機会を与え、資質の向上をめざす。また、各職員が業務や運営についての意見が述べやすい環境づくりに努める。
- 財政基盤の安定化
安定した財政基盤の確立のため、収入財源の確保に努め、効率的な運営を行う。

・診療実績（平成28年度・病床数71床）

《入院診療》

届出入院基本料	障害者施設等入院基本料（10対1）
延べ入院数	17,995人
1日平均入院数	49.3人
平均在院日数	113.2日
病床稼働率	69.4%

・職員数（平成29年12月1日）

医師	常勤	8人	非常勤	1.7人
歯科医師	常勤	1人	非常勤	0.2人
看護師・准看護師	常勤	57人	非常勤	3.7人
支援員（介護）	常勤	13人		

支援員（相談）	常勤	4人	
保育士	常勤	8人	
栄養士	常勤	1人	
薬剤師	常勤	2人	
放射線技師	常勤	1人	
臨床検査技師	常勤	1人	非常勤0.5人
歯科衛生士	常勤	2人	非常勤0.4人
臨床心理士	常勤	2人	
理学療法士	常勤	9人	非常勤1.2人
作業療法士	常勤	3人	
言語聴覚士	常勤	1人	非常勤0.3人
事務員	常勤	7人	非常勤0.7人
合 計	常勤	120人	非常勤8.7人

・特徴

当センターは児童福祉法に基づく医療型障害児入所施設及び障害者総合支援法に基づく療養介護事業所としての病床（一体型）であり、肢体不自由児、重症心身障害児・者を対象とした入院・入所施設である。

・自施設の担う政策医療

医療型障害児入所施設・療養介護事業所として肢体不自由児、重症心身障害児・者に対して医療と療育を提供。

・他機関との連携

入所に際しては行政機関と連携。入所児・者の容態急変に際しては近隣の医療機関と連携。

④ 自施設の課題

フルオープン（140床）に向けて、医療スタッフを順次確保しながら段階的に病床数を拡大していく。

《病床拡大の計画》

平成28年	4月	71床
平成29年	10月	105床
平成31年	4月	120床
平成33年	1月	140床

【2. 今後の方針】

① 地域において今後担うべき役割

三河地域における重症心身障害児・者の病床の不足に対応するために愛知県が整備した施設であり、今後も引き続き三河地域における重症心身障害児・者及び肢体不自由児の支援拠点としての役割を果たして行く。

② 今後持つべき病床機能

引き続き重症心身障害児・者及び肢体不自由児の入院・入所のための病床として拡大していく。

③ その他見直すべき点

特になし。

【3. 具体的な計画】

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			
慢性期	71床		140床
(合計)	71床		140床

・具体的な方針及び整備計画

重症心身障害児・者及び肢体不自由児の病床を拡大する。

平成31年 4月 120床

平成33年 1月 140床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標
2017年度	○本プランの検討 ○医療スタッフの確保	○本プラン作成
2018年度	○地域医療調整会議における合意に向けた検討 ○医療スタッフの確保	○地域医療調整会議における合意
2019～2020 年度	○医療スタッフの確保	○病床拡大(140床)
2021～2023 年度	—	—

② 診療科の見直しについて

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持	整形外科、小児科、リハビリテーション科、精神科、泌尿器科、内科、耳鼻いんこう科、歯科	→	同 左
新設		→	眼科、皮膚科、外科
廃止		→	
変更・統合		→	

・具体的な方針及び計画

入院・入所している障害児・者に対して眼科、皮膚科、外科の治療も必要であるため、医師（非常勤）の確保に努める。

③ その他の数値目標について

(医療提供に関する項目)

・病床稼働率 92.1%

フルオープン時：病床140床、1日平均入所者129人

(経営に関する項目)

・人件費率 70.5%

フルオープン時：支出 1,792,609千円

うち人件費 1,264,627千円

・医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合 0.25%

【4. その他】

特になし。